



ふるさと笠松の「ちょっといい話」126号



これぞ報徳精神。38年間、松枝小学校の全校児童へみかんを送り続けた小松さんと、その小松さんを支え続けた棚橋さん！

静岡県熱海市に住んでいた小松友雄さんは、昭和23年から38年間、松枝小学校の全校児童にみかんを送り続けました。1回に45個ずつ6クラス×6学年分ですから約1620個にもなります。年によっては児童1人に2個ずつ送ってきたこともありましたが、戦後は食料が少なく、みかんも貴重品でした。そのみかんを38年間児童に送り続けたのはなぜでしょう？その理由は小松さんの所属していた加越部隊が戦争中、松枝小学校に駐屯していたことにあります。小松さんはその時、松枝の婦人会の人や地元の人から野菜をいただいたそうです。その恩返しにみかんを送り始めました。小松さんはみかんだけでなく、勤労を貴ぶ精神を児童に学んでもらいたいと思い、勤労賞を設け全校で2名の児童に学用品と一緒に与えました。その栄えある第1号の受賞者の1人が棚橋さんです。

棚橋さんはその後、5年に1度、松枝小学校を訪問する小松さんを自分の家にお泊めしたり、小松さんの家を訪れたりして、パイプ役をはたしてみえました。小松さんが病気になった時には励ましの文集を率先し作成されました。小松さんがなくなられてからも、息子さんたちとの交流を続けてみえるとのことでした。

棚橋さんは熱海市下多賀町の小松さんのお宅を訪問されたとき、神奈川県の一宮神社と一緒に参詣したことが今でも印象に残っているそうです。今回の道徳のまち笠松のつどいの中桐講師様が、一宮尊徳の7代目であることを知って、この小松さんとのふれあいについて語ってくださいました。ありがとうございました。



作成した文集を手に、お話くださった棚橋 繁夫 様

棚橋さんとのインタビューを終えて・・・報徳思想とは恩に報いること・恩を返すこと

10時から2時間のインタビュー時間があっという間に過ぎました。松枝小学校の校長室をお借りしましたので、堀校長先生も一緒に話の輪に加わってくださいました。校長室には様々な貴重な資料が今も数多く残っていました。それだけ歴代の校長先生方も小松様との交流を大切にしていた証拠でしょう。それにしても38年間恩に報いるということは、想像もできません。この話は松枝校区だけではなく、広く笠松町民の方々にも知ってもらえたらとてもうれしいです。